

## 肥料の成分 それぞれの役割

【指導員】 園芸課 小松 将

夏秋野菜の収穫も終わり、JAでは来年度に使用する肥料・農薬の予約注文を取りまとめしております。今回は肥料の成分がどういった役割をしているか紹介いたしますので参考にしてください。

### チッソ (N)

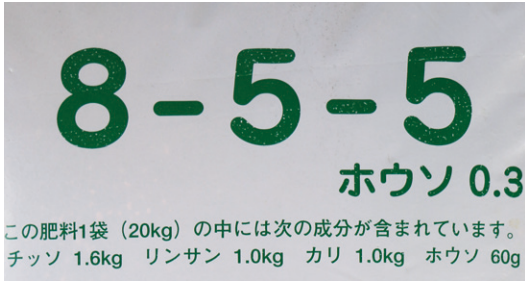
・作物の生育と収量に最も大きくかわる要素で特に茎葉を伸長させ葉色を濃くします。このことから「葉肥」と呼ばれます。しかし、過剰に与えると軟弱に育ち、病虫害の被害に遭いやすくなり、かえって減収や品質の低下を招くこととなります。葉や茎を食べる作物では、他の野菜に比べ多く必要とします。

### リン酸 (P)

・おもに開花や結実を促進する作用がある要素で、このことから「花肥」または「実肥」と呼ばれます。リン酸が欠乏すると開花・成熟が遅延し、茎や葉の割合に対して実の収量が少なくなるため、果実を食べる果菜類では特に重要となっています。

### カリウム (K)

・カリウムは根の発育を促すため「根肥」と呼ばれています。作物は、土にカリウムがあればあるほど吸収してしまいう性質がありますが、植物の要求量は窒素ほど多くはありません。根の伸長を促進するため、大根などの根菜類では要求量が増える傾向にあります。



この肥料1袋 (20kg) の中には次の成分が含まれています。  
チッソ 1.6kg リンサン 1.0kg カリ 1.0kg ホウソ 60g

▲上の写真のように、肥料袋の裏面には肥料1袋あたりに何%の成分が入っているか書かれています。(左から、チッソ、リン酸、カリウム)



▲肥料の中には一目で何が含まれているかわかるものも多いです。こちらは苦土と石灰が含まれています。

### カルシウム・石灰 (Ca)

・植物の正しい細胞分裂に作用し、特に根の先端の発育に欠かせない要素です。他にも植物の細胞膜を強くし、耐病性を高める作用があります。

### マグネシウム・苦土 (Mg)

・光合成に必要な葉緑素を構成する要素です。植物の体内で様々な酵素を活性化させ、他の成分から栄養を作ったり、吸収を助けたりします。

上記のほかに微量要素といわれる、植物の体内にあまり

多くはないですが、必要とされる要素があります。鉄 (Fe) やマンガン (Mn)、ホウ素 (B) などがこれに含まれます。

近年、長く作付している圃場では、植物が吸収しきれなかった分の肥料が蓄積されて過剰に残ってしまっていることがあります。過剰に残った肥料分は根の肥料焼けや病害を助長するなど、かえって害を及ぼすことがあります。肥料は適切な量を施肥するようにしましょう。

肥料はたくさん入れたらよいというものではなく、作物によって吸収する量や成分が違います。適切な成分を適切な量、適切なタイミングで施肥することがおいしい野菜をたくさん収穫するための秘訣となります。

◆ ◆ ◆  
肥料・農薬の予約注文はまだ受付していますのでぜひお近くの営農センターにご相談いただけますよう、よろしくお願いたします。